

今年も始まります！！ 住宅改修補助金制度！！

この制度は筑紫野市限定ですが、他の市でもこれに似た制度があります。
気になる方は、当社までご連絡ください。

筑紫野市では、緊急経済対策の補助金制度の受付が始まります。
補助金制度の大まかな内容は、

住宅の所有者が行うバリアフリー工事・省エネ工事・耐震補強工事・
耐久性能工事に補助金を受ける事が出来ます。
床・壁・天井の張替やサッシの取り付け・取り替えなども含まれます
補助金の金額は、住宅改修の場合 10万円を限度とし 工事費の10%です。

耐震改修の場合は、60万円を限度とし 工事費の60%です。
予算の枠を超えると受付が締め切りになりますので、
早めの申請が必要です。

工事は、「平成27年3月31日までに完了できる改修工事」となっています。
工事を直ぐに行う必要はありません。

来年に行っても良いのです。

年々受付の終了が早くなっている様です。

また、着工前に必ず申請を行わないといけませんし、図面・写真などが必要です。

当社で申請のお手伝いをさせていただきますので、お気軽にお知らせ下さい。

住宅改修補助金 ￥100,000

耐震改修補助金 ￥600,000



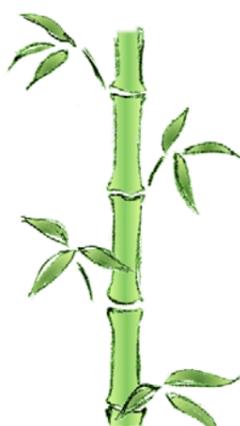
世界でただひとつ、あなただけの部屋作りをしてみませんか？
中西建設では親切・丁寧をモットーに喜んでお手伝いさせていただきます。

住まいに関することなら、何でもご相談ください。

見積もり無料！住まいのかわら版を見て と言
気軽にお電話ください。 お待ちしております。

中 西 建 設

〒818-0058 筑紫野市 湯町1丁目11-1
Tel (092)922-2777 Fax (092)922-2731



『竹の花』の話

先日 ある方から ”竹の花”の話を聞きましたので、少し調べてみました。

* 竹の開花

竹の開花は、「竹の死病」とも言われるほど被害が甚大で、管理次第では絶滅することもあり、開花前の大きさに回復するまでには15～20年を要するといわれています。
その原因は学問的な定説はなく、「栄養説」・「太陽黒点説」・「伝染病説」・「周期説」などの諸説があります。
近年では、竹の開花は竹の生理的な現象で、周期的(60～70年)に開花している事例が見られています。
また、竹の種類によっても開花の形態が異なり、過去、県内の開花で大きな問題となっているのはマダケ、カシロタケ、ハチクが主なもので、モウソウチクの開花で問題になった記録はありません。

1. マダケ類の開花

最近の開花事例としては、昭和33年(1958)頃杷木町で始まり、その後、昭和37年～39年(1962～1964)をピークに県下全域に広まり、昭和45年(1970)頃まで続きました。この開花林の完全回復には、昭和60年(1985)代までの15～20年を要しました。この間、国内産の竹材生産が大幅に減少したために中国などからの竹材、さらには竹製品の輸入が急増し、国内の竹材生産・竹加工業界に大きな打撃を与えました。

2. カシロタケの開花

カシロタケでは、大正6年(1919)に始まり大正14年(1925)頃まで開花していますが、その面積は星野村・浮羽町等を中心に1,000ha以上にも達しています。折りしもこの頃は、日露戦争後の木材不足で林業ブームの時であり、星野村の開花竹林の跡地の多くはスギ林に林種転換され、これが八女林業の元ともなっています。

3. モウソウチクの開花

モウソウチクの開花は、毎年と言ってよいくらい「どこか」で、「数本～数十本規模」で見られてきました。このようにモウソウチクでは、マダケやハチクのように数百haといった大規模一斉開花の事例は見られていないし、数年間続けて開花していることもありません。

* 福岡県の代表的な竹の種類

カシロタケ

福岡県の竹歴史に始めて登場する品種といわれています。延応元年(1239)、星野村で発見されています。
星野村、黒木町、浮羽、杷木だけにしか分布しない竹で、福岡県の郷土竹種です。本種は、肉厚・筋高・筋間が短く、竹細工用より強靭さが求められる農林漁業用資材、海苔養殖用支柱材として活用されてきました。分布面積は50ha程度まで減少しているといわれています。

マダケ

日本古来からの在来種と言われ、全国各地に分布する日本の代表的な竹です。マダケは他のどの竹よりも節間が長く、弾力性に優れているために細工がしやすく、竹箆・飯箆などの竹製品の加工資材、農林漁業・建築用、生活用具、民族行事等の資材として活用されてきました。

モウソウチク

モウソウチクは中国から移入されたもので、永享年間(1429年～)立花町(旧辺春村)の正光寺に辺春隼人助が植栽したと伝えられています。元和元年(1615)との説もありますが、いずれにしても、約400年の歴史を刻んでいます。現在、モウソウチクは県内各地に広まっていますが、主な地域としては立花町を中心とした筑後地域と、小倉南区を中心とした北九州地域で、たけのこの生産竹林として管理されています。

